

令和4年度 4月 訓示

令和4年4月1日

礼文町長 小野 徹

「人が育つ組織を!」

部下をしっかりと育成していくことは管理職の使命です。

職員が足りなければ足りないほど、部下をしっかりと育てていくことは管理職の仕事になります。でも、部下を育てることに正解や早道はありません。前向きな若者の才能や可能性に気づくことのできる大人であってほしい。ちょっとした出来事にも奇跡のような巡り合わせが隠れていることを忘れないでほしい。そして、部下をやる気にさせること。それは信頼関係の上に人がひとを育てるということにほかなりません。

皆さん、おはようございます。 いよいよ令和 4 年度の始まりであります。 初めに、9 名の新採用の皆さんと 5 名の地域おこし協力隊の皆さんにお話をしたいと思います。 さきほど、新規採用職員を代表して「^{やないりょうすけ}矢内諒介さん」から宣誓をいただきました。 社会人として初めてのスタートとなる人、あるいは、既に社会人となっていましたでしたが新たに仕事への価値を見出し礼文町の職員となられた方、いずれにいたしましても私たち礼文町職員の仲間となられましたことに心からお祝いを申し上げるとともに歓迎いたします。 去年、一昨年と 2 年にわたり、新型コロナウイルスが猛威を振るいました。 世界中がさまざまな危機的状況に陥り、皆さんの中には、自粛が続いて不便を強いられ、消化不良となった学生生活に未練を残しておられる方もいるかもしれません。 しかし、社会にはコロナ禍で仕事を失ったり、経済的な苦境に立たされたりと予想外の運命を背負うこととなった人が大勢います。 一方、私たち職員を含めた、医療や介護、救急などに携わる人たちは、多くの人たちの命を守るために、自らの危険を顧みず日々奮闘してきました。

今日から皆さんは、礼文町の町民皆さんの暮らしを守り、ま

ちをつくり、地域を支える、礼文町の職員になったのでございます。これまでとは立場を変えて社会全体を見渡し、この危機を乗り越えるために、自分なら何ができるか、どうしたら苦しんでいる人を支えていけるか、また、礼文町の将来に向けた大きな課題である「少子化」と「人口減少」に歯止めをかけ、若者が未来に明るい希望の持てる、活力ある礼文町づくりに向け力を合わせて進んでいただきますようお願いしております。

同時に、皆さんには、若く、斬新で、革新の志にあふれた新しい風を吹き込んでいただきますよう期待しているところでございます。公務員は、安定した収入と地位が保証されていますね。これはとりもなおさず「住みやすい活力あるまちにしてほしい」という町民皆さんの役場への思いでありますから、皆さんも、町民皆さんへの期待に応えなければなりません。

そこで間違っではいけないこと、勘違いしてはいけないことをひとつだけ申し上げます。それは、役場は、いかに町民の皆さんから求められている行政サービスができるか、また、そのことによって、良い成果を生み、町民皆さんを幸せにするためにあるものだということでございます。

ですから、決して役場組織や職員の生活を維持するために役場が存在するものではないということを忘れないでいただきたいと思います。

先ほどの宣誓にもありました。主権は国民に存するという憲法を尊重し、地方自治の本旨を理解したうえで、公務を民主的かつ効率的に運営すべき責務を自覚し、全体の奉仕者として誠実かつ公平に職務を遂行しなければならない。

このことを今後も絶えず思い起こし、常に笑顔を絶やさないで、いかに町民皆さんに寄り添い、町民の皆さんから頼りにされる職員になることができるかということだと思います。

私は、役場の仕事ほど町民の皆さんと触れ合う中で、やりがいのある、面白い、自己実現ができる職業はないと考えています。このようなやりがいのある、一生の誇りある仕事に仕上げるかどうかは、偏に、皆さん一人ひとりの努力によるものであると思います。努力は必ずや良い結果をもたらします。新採用職員の成長と飛躍を心から期待しています。頑張ってください!

では、ここからは全ての職員に申し上げます。今回の異動

は期せずして大きな異動となりました。それぞれ昇任昇格された皆さんに心からお祝いを申し上げます。おめでとう!

人事異動は、職員一人ひとりが自らの能力を開かせ、その力を発揮させる環境づくりであり、職員が組織の中でより一層可能性を引き出せるためのものであると考えております。したがって、いつも云うことではありますが、異動された方、異動しなかった人、それぞれに意味があるのだということをしっかりと考え、仕事に励んでいただきたいと思います。

もとより、今、役場は、職員が足りない厳しい状況にあります。だからこそ私は、職員みんなでスクラムを組み、元気な礼文づくりに一層邁進されますよう期待をしているのでございます。

そのうえで、特に二つのことを申し上げます。

まず、1点目は、皆さんもご承知のとおり、昨年、一昨年と2年続きで礼文町のみならず全国各地で、コロナ禍に見舞われました。今年にはいつてからは、オミクロン株やそこから派生した「BA・2」ウイルスなどの変異株の出現により、第6波の感染拡大がみられました。礼文町においてもずっと感染を防いできましたが、2月には44名の感染が確認されました。

ようやく、3月21日で「まん延防止等重点措置期間」は解除されましたが、今も町の経済は大変厳しい状況にあり、全国でも新規感染者が高止まりの状況であります。特に、これから年度はじめの進学や就職、転勤に伴う人の移動、往来が盛んになり、会食の機会も増えるなど、悪い条件が重なり感染リスクが高まる時期となってくるので私たちは気を緩めることなく、さらに注意しなくてはなりません。

わが町の3回目のコロナワクチン接種も3月10日から始まって3月は29日で終わっていますが、今後、4月23日、5月6月にも行うこととしてスピードを上げていくこととしています。また、感染再拡大を防止するためには、先般、北海道から示された、飲食など感染リスクが高まる場面や高齢者施設など感染が広がっている場所における感染防止行動の徹底を図っていただくよう特にお願いいたします。

併せて、私は、今年度「健康づくり」を進めてまいります。「健康寿命」と呼ばれる自分で介護の手を借りずに自分の思うように生活できる期間を伸ばすという取り組みではありますが、まずは検診等により「早期発見」による「早期治療」、これを「地

方創生総合戦略」にも加えていきたいと考えています。ただこの「健康づくり」は保健課だけの取組みではありません。それぞれの仕事の中でも「健康づくり」を意識して取り組んでいただきますようお願いいたします。

話しは変わりますが、私は、この2年間コロナと戦ってきた中で、「人間ってすごいなあ」と感じています。

人類の長い歴史の中で、人はいろんな困難にあたっても、必ず、その困難を乗り越えようとする素晴らしい知恵と力を持ってきました。

だから、まだまだ安心はできませんが、近い将来において、間違いなく私たち人類は新型コロナウイルスを克服して、コロナ後に新しい時代が来ると私は信じています。 これまでも、人類の存亡に関わる困難を乗り越えた後には必ず発展する社会がありました。 そういう歴史を繰り返して現在に至っていますから、今回のこのコロナ禍の後も、これまでとは違った形で幸せに生きることができる、そしてより一層文明が発達する…そういう社会になるであろうと思っています。

そうした中で、令和 4 年度私たちは、新しい元気な礼文づくりに向けて第一歩を踏み出したいと考えていますし、そういう意味で希望の持てる明るい年になるのではないかと考えています。しかしながら、礼文島は2年続けて、観光客が見えない、宿泊客がいないという極めて深刻な状況であり、今年も同じように大きな影響が懸念されております。

ご承知のとおり、観光というのは宿泊だけでなく、運輸、交通、外食、土産、そしてお米や野菜、飲み物の小売店まで、あらゆる業種に関連するだけに、礼文島の経済に大きな打撃を与えると町民の皆さんは今年も大きな不安を抱えているわけがありますので、その対策が急がれるのであります。まん延防止等重点措置が終わりましたので、これからは経済活動との両立を図る方針に変わるそうであるから、旅行に対する「どうみん割」や「Goto トラベル」などの助成事業、また、飲食店への支援策である「Goto イート」などが再開されることとなりますが、感染者数の高止まりなど、まん延防止等重点措置期間は終わっても、感染が収束したわけではありませんので、注意しながら、しかし、確実に取り組んでいきたいと思っています。

昨年コロナ禍にあつて様々な行事を行うことができませんでした。町民の皆さんがコロナ禍の中でどんなことを思い、悩み、何を望んでおられたのか、町民の皆さんの声を聴く機会が大変少なくなつてしまいました。したがつて、町民の皆さんに「寄り添う」という気持ちを大事にしていただきたい。さきほど新採用職員の皆さんにも申し上げましたが、私たち職員が町民の皆さんに「寄り添う」という強い気持ちをもつともつと意識して、町民の皆さんから「頼りにされる役場職員」になるという自覚、気概を持つていただきたいと思っているのでございます。

そして、二つ目は、行政の仕事は自分一人ではもちろん、誰か一人の力だけで動くものではないと云うことであります。

これは皆さんご承知のとおりで、今、役場を辞めていかれる方が多く、職員が足りない状況です。

それでも私たちは、役場職員の力をひとつにして10年後、20年後の人たちに何を残せるか、町の将来の負担をいかに減らしていけるかを常に念頭に置いて、礼文町の明るい元気な未来を創るという志(目標)を持たなければなりません。

私は、そのためには「人が育つ組織」にしなければならないと思っています。今回若い管理職が増えました。でも、職員が足りません。職員が足りなければ足りないほど、部下をしっかりと育てていくことは管理職の仕事であります。しかし、残念なことに部下を育てることには「正解」や「早道」などありません。

前向きな若者の才能や可能性に気づくことのできる大人であってほしいと願っています。ちょっとした出来事にも奇跡のような巡り合わせが隠れていることを忘れないでほしいと思っています。

大事なことは、部下をやる気にさせることであり、それは信頼関係の上に人がひとを育てるということにほかなりません。上司が見本となることで、部下はその体験ができ、その体験を通して上司に共感して、部下の意欲は喚起されます。

お互いが、一人の人間として尊重され信頼しあうことで、上司は部下の長所を伸ばし、「やりたくなる」ように支援する。結果が上手くいったら一緒に喜ぶ。

このように、いつも自分の心で感じ、頭で考え、五感で確かめることを心掛けていただきたいのです。

「注意してもミスが直らない」「ほめてもやる気を出さず、モチベーションが上がらない」と云った部下に対する様々な悩みは管理職のみならず多くの人を経験しているのではないのでしょうか？ しかし、ここで、よく考えていただきたいのです。

例えば、一生懸命ほめても相手に「全然嬉しくない」と受け止められることがあります。逆に、叱っても「ちゃんと見てくれていて嬉しい」と受け止められることもあります。その違いは为什么呢？ 私はその違いは「心の底から尊敬する人」に言われたかどうかによると考えています。ほめることの効果は、自分が相手にとって「心の底から尊敬する人」になれているかどうかで、全く変わってくるということだと思えます。

管理職の皆さんには、部下を深く理解し、その成長を見守る姿勢が求められ、部下からも尊敬される存在であることが必要です。そして、部下に対して「ありがとう」「よくやった」と感謝の気持ちで日頃の仕事を^{ねぎら}労うことが大切です。「ありがとう」の気持ちを目に見えるようにすることで、部下との信頼関係ができ、その結果、職員の士気が高まり、組織力の強化向上につながっていくのでございます。

口で云うほど簡単なことではありませんが、こうした毎日の小さなことの積み重ねが大事であります。私は「ほめること」は「種を蒔くこと」と同じだと考えています。蒔いたことを忘れるくらい蒔き続ければ、必ず芽が出て花を咲かせることができます。

私は、こうした粘り強い小さな積み重ねを通して、役場を人が辞めていく職場ではなく、これからは「人が育つ職場」にしたい、「若者が働きたい役場」にしたいと思っています。

職員が足りない今だからこそ、「人が育つ組織」とするために、職員お一人おひとりをお願いしたいと思います。

特に、管理職の皆さんには、率先して取り組んでくださるようお願いいたします。

また、職員の皆さんも決して上からの「指示待ち」ではなく、また、「できない理由」を探すのではなく、「どうやったらできるかな?」と考えることがとても大切です。

自らが自分の仕事の課題解決のために気概をもち、自ら進んで上司に話しかけてください。そして、仕事に熱く向き合ってください。いただくことを願っております。

結びになります。礼文島は本当に素晴らしい宝物が眠る島です。今年、礼文町は明治13年(1880年)に香深村戸長役場が開設されてから、(開基)142年となります。

先人から受け継がれてきた美しい礼文島の自然、文化、伝統など等、誇りある礼文町をより良いまちにして次世代に引き継ぐこと、それが私たち役場職員の仕事(ミッション)であります。

どうぞ、皆さん、役場職員としての気概を持ち、たった一度しかない人生であります。その人生という舞台上、自分を主人公にして光り輝かせていただきたい、そう願っております。

令和という新しい時代、役場を「人の育つ組織」に変え、職員の皆さんが「笑顔で町民皆さんに寄り添うことができる職員」、「人から尊敬され頼りにされる素敵な職員」になっていただくことを心から期待をいたしまして令和4年度始まりの訓示といたします。

一緒に頑張りましょう！